

企画展示図書の貸出に関する分析：順天堂大学本郷 ・お茶の水キャンパス学術メディアセンターの場合

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本医学図書館協会 公開日: 2024-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 由華 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.60312/0002003691

企画展示図書の貸出に関する分析：順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターの場合

小西 由華*

順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

I. 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターについて

1. 順天堂大学の構成（2024年4月現在）

順天堂大学（以下、本学）は、関東近郊に5キャンパス（9学部5大学院研究科）、6附属病院を有する。本郷・お茶の水キャンパスは、長年医学部・医学研究科のみの構成だったが、2015年度には本学初の人文系学部である国際教養学部、2019年度に保健医療学部（診療放射線学科、理学療法学科）と新学部開設が相次ぎ、学生・教職員の多様化が進んだ。「健康総合大学・大学院大学」たるべく、年々専門領域の拡充を続けている。

2. 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターの特色

筆者の勤務する本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター（以下、当センター）は医学系図書館として長い歴史を持つ。しかし、新学部開設後の現在は同キャンパス所属学部生のおよそ3人に1人が人文系であり、ここ数年で一般教養系資料の所蔵が急増した。医学・看護系の資料は米国医学図書館分類法（以下、NLMC）、一般教養系の資料は日本十進分類法（以下、NDC）で分類を付与して配架している。

また近年は、医学系のジャーナルを中心に、電子資料の比重が大きい蔵書構成になっている。講義棟を兼ねるビルのワンフロアという限られた所蔵スペースのため、紙で所蔵する資料はシラバス掲載の教科書・参考書が中心である。

II. 当センター企画展示の概要

1. 企画展示開始のきっかけ

2019年4月に筆者が入職した当時、当センターでは

まだ一度も企画展示は実施されていなかった。利用者の様子を観察していると、自習や休憩のために来館する方や特定の資料のみ求めて来る方が多く、目的外の資料に対する関心はあまり持たれていない印象を受けた。

前職の都立中央図書館では、所蔵資料に関心を持ってもらうため、館内各所で小規模な展示を展開していた。その経験から、資料の利用促進をねらい、有志の職員と共に企画展示を実施することとした。

そうした経緯で2019年6月に第1回の展示を始め、現在まで取り組みを続けている。

2. 企画展示の概要

当センターはフロアの南側に入り口があり、渡り廊下を渡って北側にも書架がある。企画展示コーナーは、通りすがりに利用者の目につきやすいように、南から北に向かう渡り廊下の入り口付近に設置した。

昔の館長用デスクを展示台として使用し、60～70冊程度の図書を展示している。テーマ替えは3～4か月に1度のペースである。担当が選ぶ一部の資料には内容を簡単に紹介したポップを付け、ブックスタンドに置いて表紙が見えるように「面出し」で展示している。

各回で資料リストを作成・配布・ウェブ公開しているほか、第6回以降の展示資料は、テーマごとにカテゴリを分けてブログに登録し、OPACの書誌URLを追記してウェブ公開している。

3. 企画展示の工夫

1) 展示する資料の選定

資料選定の際に心掛けていることが何点かある。まず、医学系資料に偏りすぎないことである。人文系の学生や事務職員等にも関心を持ってもらえるよう、一般向けの資料と専門性の高い資料の両方を含めるようにしている。また、刊行年が新しいものを選ぶ（人文系を除く）、関連する本学教員著作があればなるべく加える、といった点にも留意している。

*Yuka KONISHI：ヘルスサイエンス情報専門員（基礎）

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 センチュリータワー南9階、
y.konishi.fs@juntendo.ac.jp (2024年3月29日 受理)

所蔵資料のみでは各回テーマの資料が十分揃わないこともあるため、ふさわしい資料が見つければ、新規購入することもある。購入した資料は、展示後は通常の所蔵資料として配架している。

2) 広報

当センターウェブサイトへの掲載、学生用オンライン掲示板での配信のほか、チラシ（図1）をエレベーターホールに掲示している。

3) 学生・教員との協働

普段接点がない司書よりも、身近な学生・教員が関わった展示のほうが関心を持ってもらえるのではと考え、何度か学生・教員との協働を試みたこともある。

第3回の展示では、当センター長や運営委員の教員にイチオシ本を挙げていただき、関連本と合わせて展示した。

第9回の展示では、紙でできた等身大の人体骨格模型を有志の学生に交代で組み立ててもらい、展示資料と共に展示した（写真1）。

第17回は「本の福袋」を実施した。テーマごとに数冊ずつ本を選び、中身が分からないように袋に入れるというものである。事前に学生の参加者を募って自由に本を選定してもらい、福袋のテーマを示す手書きのポップを書いてもらった。

以上が当センターにおける企画展示の概要である。



写真1. 第9回企画展示の様子

Ⅲ. 企画展示の効果について

1. 調査と分析の背景・目的

本章以降は、企画展示図書の貸出状況の分析に入る。

分析に至った背景として、これまで企画展示に特化した利用統計等は取っておらず、展示資料の利用実態が肌感覚でしか掴めていないという問題があった。

そこで、企画展示が当初のねらいである資料の利用促進に本当につながっているのか、「展示によって貸出回数は増えるのか？」という観点から検証したいと思い、【調査1：展示期間中と展示期間外の貸出回数の比較】を実施した。また、利用が多い展示資料の傾向も把握したいと考え、【調査2：貸出が多い展示図書の分類】も実施した。

2. 調査1：展示期間中と展示期間外の貸出回数の比較

1) 調査手順（基準日：2023年9月6日）

調査は下記の手順で実施した。

- ①基準日までに終了している第1～15回の展示資料リスト（Excel）から資料IDを抽出する。
- ②図書館業務システム（iLiswave）で、①のIDから各資料のシステムへの登録日を抽出
- ③各資料の登録日から基準日までの日数を算出
- ④各回の展示期間中の日数を算出
- ⑤③から④の日数を引いて各資料の展示期間外の日数を算出
- ⑥各資料がいつ貸出されたか、登録日～基準日までの全履歴を抽出
- ⑦⑥の履歴を展示期間中と展示期間外の期間に分け、各資料の展示期間中・展示期間外の貸出回数をそれぞれ算出
- ⑧⑦で出た数値を④と⑤の日数で割り、展示期間中と展示期間外の「1日あたりの貸出回数」を資料ごとに算出



図1. 過去の企画展示チラシ例

⑨⑧の数値を比較して展示期間中のほうが展示期間外よりも「1日あたりの貸出回数」が「多い」「少ない」いずれにあてはまるかを確認し、各回で割合を計算した。

2) 調査結果

調査1の各回の集計結果を表にまとめた(表1)。展示期間中も期間外も貸出ゼロで横並びになったものは除外し、「1日あたりの貸出回数」が、展示期間中のほうが多いか、少ないか、どちらになったかを資料ごとに判定し、振り分けた結果を回ごとにパーセンテージで示したものである。第1～15回の平均値・中央値を取ったところ、「多い」「少ない」がほぼ半々で拮抗する結果となった。

また、同集計結果をグラフ化した(図2)。こちらには各展示期間中の貸出回数合計を折れ線グラフで重ねた。第7回の貸出回数合計が突出しているのが目立つが、この回は医療マンガを扱っており、長編マンガを続けて借りていく利用者が多かった影響と思われる。

3) 調査結果を受けての検討

一部の資料は展示中に貸出が増えるという結果は想定内だったが、その一方でほぼ同数の資料が展示期間中に貸出が減っていたという事実は想定外であり、驚きを隠せなかった。

だが利用者の様子を振り返ると、展示を見ている利用者がよく手に取っていたのは、展示資料の中でも特に「面出し」している資料だったことを思い出した。そのことから、「面出し」資料とそれ以外の資料で利用頻度に差が生じている可能性に思い至った。

そこで、全ての展示資料を対象に実施していた調査を、「面出し」した資料だけに絞り込んで、「1日あたりの貸出回数」の増減を再び比較したらどうなるかを追加調査することにした。

4) 追加調査：「面出し」資料のみの場合

先述の調査手順と同じ流れで、対象資料を全ての資料ではなく「面出し」した資料のみに限定して、再度集計を行うこととした。「面出し」した資料にはポップを付けていたので、過去に作成したポップのデータから対象資料を特定することができた。ただし、展示期間中にブックスタンドが空になった場合は、ポップを差し替えて別の資料を「面出し」することもあったため、ポップを作成した資料の全てが全期間展示されていたわけではない。

集計結果のグラフ(図3)を見ると、「面出し」資料のみに限定した場合、展示期間中の貸出が「多い」となった資料の割合が伸び、全体的に50%を大きく上回って

いることが分かる。平均値・中央値を出して全資料の数値と並べてみると、この差は明らかであった(表2)。この結果から、企画展示資料の中では、特に「面出し」資料の貸出が増える傾向があることが分かった。

5) 考察

最初の調査では展示期間中に貸出が増える資料と減る資料がほぼ半々で存在したという結果となり、「展示によって貸出回数は増えるのか？」という問題提起に対する答えは、YESともNOとも言い難いものとなった。

貸出が減った資料が少なからずあるということは、展示コーナーへの別置が、潜在的な利用者から資料を遠ざけてしまっている側面もあるのかもしれない。OPAC上では展示中の資料がコーナーにあることを明記しているため、ピンポイントでその資料を求める利用者にはそれほど不便をかけていないと思うが、分類に基づく本来の配架場所をブラウジングする中でその資料を発見する利用者がいたかもしれないのである。

また、追加調査からは、「面出し」した資料は特に貸出が増える傾向があると分かったが、これには「面出し」という展示方法以外の影響も考えられる。私たち展示担当者は、どの資料を「面出し」対象とするか考える際に、タイトルや装丁にインパクトがある資料を選ぶ傾向があった。資料が元々持つ訴求力が、「面出し」という展示方法によって強化され、利用者へ届きやすくなった可能性もある。

3. 調査2：貸出が多い展示図書の分類

1) 調査手順(基準日：2023年9月6日)

展示資料として第1～15回までの展示で選定した図書資料の冊数をNDC、NLMCに分けて集計し、選定資料全体における割合をグラフ化した(図4)。

続いて、展示期間中の貸出履歴を抽出し、分類ごとに貸出回数を算出した。こちらも同様に全体における割合をグラフ化した(図5)。

2) 調査結果

まず、選定資料における分類の比率を見ると、NDCとNLMCの比率がほぼ半々になっている。そこまで意識的に選定していたわけではなかったが、医学系とその他の分野で均衡が取れた選定となっていたことが分かった。NDCでは700(芸術、美術)、NLMCではWY(看護学)が最も多くなっているが、医療マンガと看護研究をテーマにした回があった影響である。

そして、展示中の貸出回数における分類の比率を見ると、NDC：NLMCが6：4程度の比率であった。

表1. 調査結果 (対象: 全資料)

	テーマ	おもな分野	展示冊数	展示期間	展示期間中の貸出回数合計	展示期間中・期間外の「1日あたりの貸出回数」の比較 (全期間貸出ゼロで並んだものを除く)	
						期間中のほうが貸出が多い	期間中のほうが貸出が少ない
第1回	いつも、そばに ～新設・保健医療学部の本～	医学系	48	2019年6月6日(木)～ 2019年9月17日(火)	26	49%	51%
第2回	世界へ羽ばたく! 国際教養学部	人文系	67	2019年9月18日(水)～ 2019年12月17日(火)	26	42%	58%
第3回	聞いてみました 先生のイチオシ本	総合	58	2019年12月18日(水)～ 2020年3月31日(火)	45	56%	44%
第4回	新生活を応援! 全力サポートブックフェア	総合	61	2020年4月1日(水)～ 2020年7月21日(火)	47	50%	50%
第5回	知りたい! 看護研究のポイント	看護系	71	2020年7月22日(水)～ 2020年10月20日(火)	29	37%	63%
第6回	新型コロナウイルスと闘う ～人類と病の歴史～	医学系	77	2020年10月21日(水)～ 2021年1月19日(火)	24	36%	64%
第7回	映像化された医療小説・マンガの世界	人文系	176	2021年1月20日(水)～ 2021年4月20日(火)	127	56%	44%
第8回	こころの健康	総合	66	2021年4月21日(水)～ 2021年7月20日(火)	53	64%	36%
第9回	スゴ骨本	医学系	67	2021年7月21日(水)～ 2021年10月19日(火)	27	52%	48%
第10回	食と栄養	総合	70	2021年10月20日(水)～ 2022年1月18日(火)	37	54%	46%
第11回	文京区の文人めぐり	人文系	52	2022年1月19日(水)～ 2022年3月22日(火)	23	57%	43%
第12回	ビジュアルに魅せられて	総合	60	2022年3月23日(水)～ 2022年6月22日(火)	51	63%	37%
第13回	子どもへのまなざし ～小児科・小児外科・小児看護の領域から～	医学系	61	2022年6月21日(火)～ 2022年10月18日(火)	29	49%	51%
第14回	皮膚と美容	医学系	61	2022年10月19日(水)～ 2023年2月21日(火)	42	48%	52%
第15回	対話で深める医学・医療と哲学	医学系	65	2023年2月22日(水)～ 2023年6月20日(火)	29	46%	54%

平均値	51%	49%
中央値	50%	50%

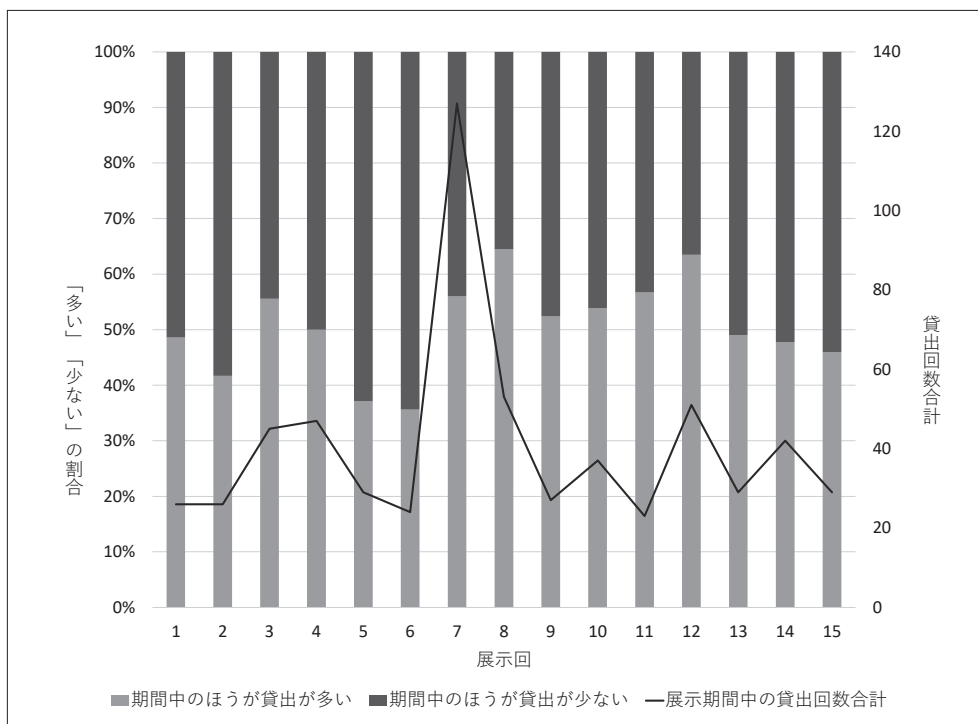


図2. 展示期間中と展示期間外の「1日あたりの貸出回数」の比較 (対象：全資料)

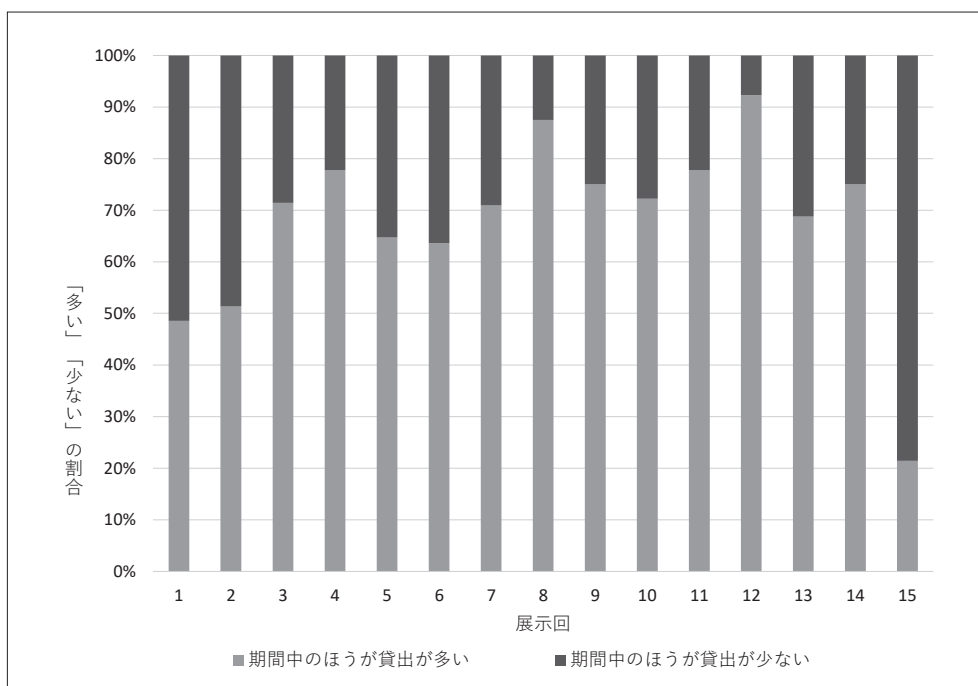


図3. 展示期間中と展示期間外の「1日あたりの貸出回数」の比較 (対象：「面出し」資料のみ)

表2. 第1～15回の平均値・中央値 (対象：全資料及び「面出し」資料のみ)

		期間中のほうが貸出が多い	期間中のほうが貸出が少ない
全資料の場合	平均値	51%	49%
	中央値	50%	50%
「面出し」資料のみの場合	平均値	68%	32%
	中央値	71%	29%

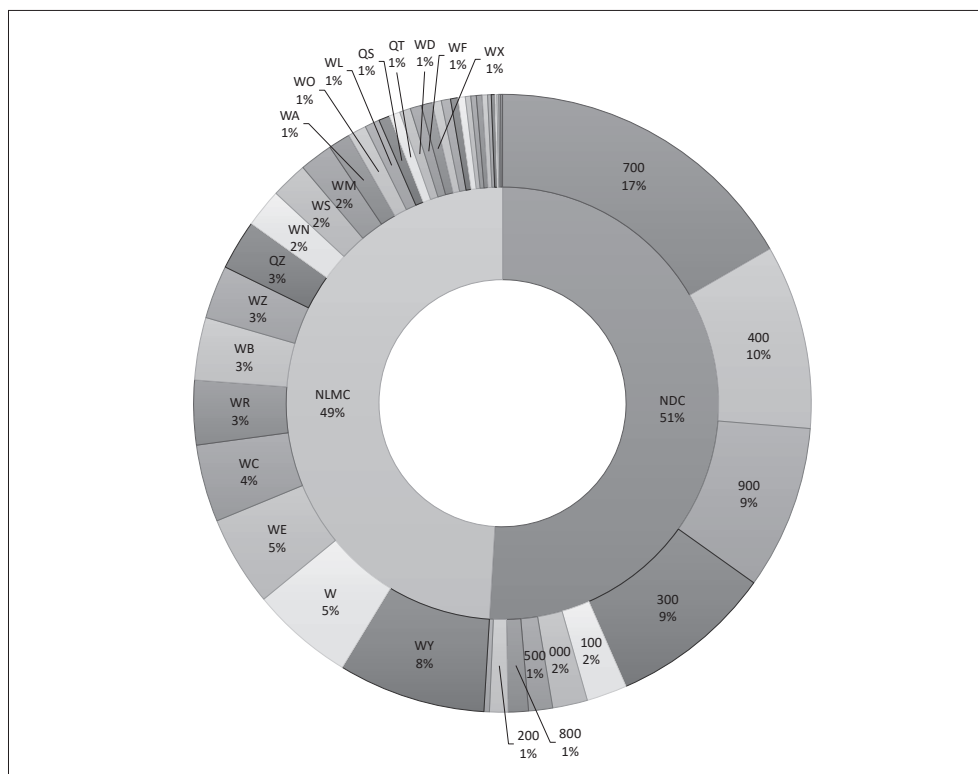


図4. 展示資料に選定した図書の分類別冊数（上位順）

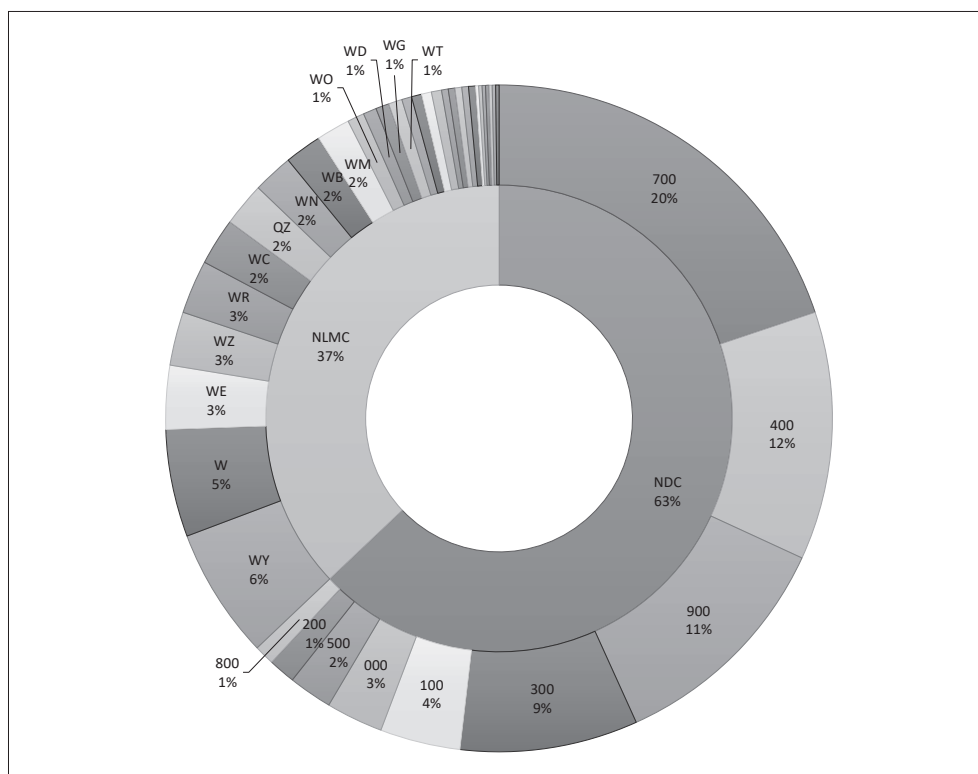


図5. 展示中の図書の分類別貸出回数（上位順）

選定した資料と貸出された資料の上位に位置する分類の順位を見比べると、NDCの資料は順位に大きな差異は無いが、NLMCの資料の順位を見ると、選定資料の中では7位だったWZ（医学史）が、貸出回数では4位にまで上がっていた。

3) 考察

選定した資料と実際に貸出された資料を比較すると、NLMCよりNDCの資料の比率が高くなったことから、医学系資料よりも一般教養的な資料の需要がやや多かった傾向が窺える。また、貸出資料の中ではWZの順位が高くなったことが特徴的だったが、WZに分類される資料には、医学系資料の中でも読み物として楽しめるものが比較的多いため利用が伸びたのでは、と推測する。

IV. まとめと後日談

数年にわたり展開してきた企画展示について、初めて腰を据えて利用状況を分析することができ、新鮮な発見があった。調査結果から「面出し」資料の貸出が増える傾向や、読み物的な資料の需要がやや多い傾向が見受けられたが、こうした傾向は各機関の利用者層によっても大きく変わると思うため、本調査の結果は普遍的なものではなく、あくまで当センターの傾向とお考えいただければ幸いである。

最後に本調査の後日談として、先にも紹介した第17回の「本の福袋」について触れる。調査基準日より後の開催（2023年10月25日～2024年2月20日）のため

集計データには含めていないが、学術集会の場合でも質疑やアンケートで当企画に関心をお寄せいただいた。

「本の福袋」は多くの公立・大学図書館で盛んに実施されてきた企画であり、筆者も多少反響を期待していたのだが、当センターでは人気が乏しく、あまり貸出が振るわなかった。医師国家試験など重要な試験期間と被っていたことも一因かもしれないが、本調査の結果と照らし合わせると、企画の特性上「面出し」資料がゼロになってしまう点がマイナスに働いた可能性も考えられる。

当センターの利用者にとっては、ぱっと見た第一印象でどんな本か把握できることが重要なかもしれない。

筆者としては、どの本を借りようか吟味したり、偶然の本との出会いを楽しんだりしていただきたい思いもあるが、学業や研究に忙しい日々の中で、ゆとりを持って本と向き合うスタイルは、あまり当センターの利用者にはそぐわないのかもしれないと感じた次第である。

今後も利用者のニーズ把握に努めつつ、利用者と資料との出会いの場を創出していきたい。

なお、本稿は第7回JMLA学術集会での発表内容をもとに加筆修正したものである。

参考・引用文献

- 1) 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター企画展示 [internet]. https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/hongou/kikaku_tenji/index.html [accessed 2024-03-28]